教育あきた 3月号

2024 No.758

第50回全国高等学校総合文化祭　あきた総文2026
令和5年度生徒準備委員会

主な内容

TOPICS　知事と語らう未来の秋田…… P3
事業紹介　心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進…… P7
TOPICS　全国高等学校総合文化祭秋田大会…… P8
事業紹介　メタバース × MUSEUMあきた構築事業 …… P10
事業紹介　県立図書館デジタルアーカイブ…… P12

わか杉っ子！育ちと学び支援事業

県教育委員会では、乳幼児期における教育・保育の質の向上を図るため、教育・保育アドバイザーを配置する市町村の拡充のほか、幼保小連携に向けた基盤づくりや架け橋期※にふさわしいカリキュラムの開発・実施に向けた支援などに取り組んでいます。

※「架け橋期」とは・・・
５歳児から小学校１年生の２年間を指し、文部科学省では、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期と位置付けています。

○リーフレット「もうすぐ１年生　～育ちと学びを未来につなぐ～」について

乳幼児期の育ちと学びの重要性について理解啓発を図るため、５歳児がいる家庭のほか、幼稚園・保育所・認定こども園等の各施設や小学校にこのリーフレットを配付しています。

「安心して入学を迎えるために家庭でも心がけたいこと」を紹介しています。小学校教育の前倒しとしての練習ではなく、たくさんの遊びから多くのことを経験させることが重要です。

小学校への入学に当たり、多くの保護者からお聞きする不安の声と、そういった不安に対する小学校での取組等を紹介しています。

５歳児までの乳幼児期は、遊びなどの経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして実現しようとしていく時期です。小学校１年生になってからは、自分の好きなことや得意なことが分かってくる中で、それ以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期です。
ここでは、それぞれの時期に育みたい資質・能力について紹介しています。

本リーフレットは「美の国あきたネット」にも掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

TOPICS

知事と語らう未来の秋田

県教育委員会では、令和５年８月７日に「知事と語らう未来の秋田」を開催し、県内の中学校、義務教育学校及び特別支援学校の生徒14名が本県の課題や県政について、佐竹敬久知事を交えて意見交流を行いました。

参加した生徒からは、それぞれが思い描く未来の秋田について様々な意見が出され、熱心な議論が交わされました。

参加校	
県北	鹿角市立花輪中学校 北秋田市立義務教育学校阿仁学園 能代市立二ツ井中学校
中央	潟上市立羽城中学校 由利本荘市立西目中学校
県南	仙北市立角館中学校 横手市立横手南中学校 羽後町立羽後中学校
県立	大館国際情報学院中学校 秋田南高等学校中等部 聴覚支援学校

意見交流

参加した生徒が、本県の一番の課題と考えている「人口減少」を切り口として、「秋田の魅力の発信」、「働く場」、「子育て」、「若者の社会参画」の４つのテーマごとに、自分の考えを発表しました。

その後、知事を交えて、それぞれの課題を解決する方法について話し合いました。

意見交流の様子

振り返り

意見交流の内容をもとに、グループに分かれて「明るく元気な未来の秋田を表すキャッチフレーズ」を考えました。

知事からの助言を得ながら話し合った結果、各グループからは「発信」、「身近な地域との協力で可能性を広げて自慢の秋田へ」、「俺だの秋田が一番だ！」、「つながり・連携」というキャッチフレーズが挙がりました。

振り返りの様子

本会終了後、生徒からのアンケートには、「明るく元気な未来の秋田にするために自分がどのように関わればよいかなど、考えを深めることができた」という感想が多く寄せられました。

また、参加した生徒以外にも本会の様子を広く知ってもらうため、県内の各中学校、義務教育学校及び特別支援学校への動画配信も行いました。

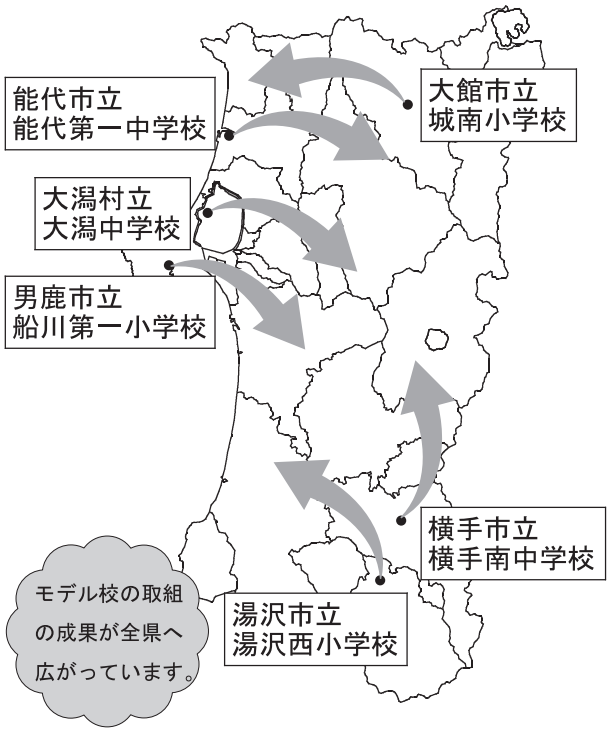
ＩＣＴを活用した秋田の教育力向上事業

県教育委員会では、県内各学校におけるＩＣＴ活用を推進するため、令和３年度から本事業を展開してきました。

事業最終年度となる今年度は、**各モデル校の授業研究協議会（授業公開）**を昨年度よりも公開の対象を広げて行い、県全体で約800名の参加がありました。この協議会では、モデル校における授業等が公開されることにより、ＩＣＴを活用した効果的な学習方法や指導方法に関する研究成果等が全県に共有されました。

また、**「検証改善委員会」**や**「オンライン・ミーティング」**のほか、今年度は初の取組である**「ＩＣＴ活用リーダー研修」**を開催するなど、本県教育におけるＩＣＴ活用を着実に進めています。

各モデル校の授業研究協議会（授業公開）



ＩＣＴを活用した学習の様子（小学校・生活科）

低学年の児童であってもタブレット端末を使いながら学び合うことができています。

参加者の声（一部抜粋）

- 探究型の授業が土台となっており、ＩＣＴが有効活用されていた。
- 生徒が、タブレット端末とノートのうち、自分の使いやすい手段を選択して学習に取り組んでいたのが印象的だった。
- ＩＣＴの活用により個の学び、連動して協働的な学びが充実していくことを学んだ。

検証改善委員会

- 有識者による助言を得ながら、ＩＣＴ活用の成果と課題を明らかにしました。
- 今後の方策等は、「学校改善支援プラン」にまとめ、本県学校教育の一層の充実を図っていきます。

オンライン・ミーティング

- パネル・ディスカッションや講演等をYouTubeでライブ配信しました。
- ＩＣＴ活用の充実について視聴者と共に考えました。

ＩＣＴ活用リーダー研修

- 教育におけるＩＣＴ活用を推進する中核的な役割を担う教員等を対象に、研修を行いました。
- 参加者同士の意見交換等が活発に行われ、有意義な研修となりました。

いのちの教育あったかエリア事業

推進地域（推進校）の実践紹介

本県の道徳教育の重点である「生命尊重・思いやりの心」を育てる教育を「いのちの教育」として本事業に位置付け、推進地域において、学校と家庭・地域が連携しながら一体となって命の大切さについての認識を高めるモデルづくりを行っています。

推進地域（推進校）：五城目町（五城目小学校、五城目第一中学校）

思いやりの心と生命を尊重する気持ちを育て、夢をもって前向きに生きようとする児童生徒の育成を目指し、「小中連携」「体験・交流活動」「地域連携」を重点項目として道徳教育の実践に取り組みました。

▶小・中合同あいさつ運動

○「創り出そう　あいさつで広げる絆の輪」をキャッチフレーズに、小・中合同であいさつ運動を行いました。

○地域の方々が温かく見守る中、あいさつを交わすことで思いやりの心が育つ取組となりました。

▶命の学び　応急手当教育プロジェクト

○町消防署との連携により地域の方と一緒に命の大切さを学びました。

○勇気をもって大切な命を守るという強い気持ちが育まれ、「家族に何かあったら自分が役に立ちたい」という感想が聞かれるなど、自己有用感の醸成につながりました。

地域に根ざしたキャリア教育の一層の充実を目指して

令和５年11月20日に「令和５年度キャリア教育実践研究協議会」を４年ぶりに参集型で開催しました。県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から118名が参加し、有識者による講演、各校種の実践発表、グループ別協議などが行われました。

有識者による講演

キャリア教育コーディネーター　奥（おく）　真由美（まゆみ）氏から、「これからの時代に求められるキャリア教育の在り方」をテーマに、学校と地域・産業界が連携・協働して取り組む、子どもの主体性を育むためのキャリア教育の具体について、御自身の経験を交えた貴重なお話を伺いました。

奥 真由美氏による講演

実践発表

４校の教員から、地域や企業等と連携した特色ある実践を紹介していただきました。具体的な取組事例を共有する上で貴重な機会となりました。

実践発表校

能代市立二ツ井小学校・中学校
県立羽後高等学校
県立大曲支援学校せんぼく校

グループ別協議

「これからの体験活動の在り方」及び「キャリアノート*等の活用の在り方」という二つの視点で校種混合のグループ別協議を行い、各校における様々な実践の工夫や、取組を進めるに当たっての悩みなどについて、情報交換を行うことができました。

*キャリアノート：子どもたちがキャリア教育に関わる諸活動について、記録し、蓄積することができるポートフォリオ的な教材のこと。

特別支援学校生の職域拡大・職場定着促進事業
～事務系等の職域拡大・理解促進の取組～

県教育委員会では、特別支援学校生の就職支援や、企業等に対して障害者理解の促進を図るための取組を行っています。

今年度は、特別支援学校生の就労可能な職域を拡大するため、特に事務系の職域拡大にも力を入れて取り組みました。今回は、本事業における取組内容と成果をご紹介します。

事務系等の職域拡大の取組

◎事業推進拠点校の指定と職域拡大・職場定着促進会議の開催

本事業の推進拠点校として指定した県央地区の県立特別支援学校において、職域拡大・職場定着促進会議を開催し、学識経験者、教育・労働・福祉関係者、事業所団体の方々と事務系の職域拡大に関する方策について検討しました。また、特別支援学校の卒業生を雇用している事業所からは、事務系の業務内容や就労支援について情報提供していただきました。

これにより、事務系の職域拡大の方向性と在学中に育む力を確認することができ、進路指導や教育活動の改善に生かしています。

◎職域拡大推進員の配置

事業推進拠点校に職域拡大推進員を１名配置し、事務系等の職域を拡大するための事業所訪問や職場見学・体験・実習の依頼・交渉を行いました。推進員が訪問先で得られた情報や事務系等の職域拡大のノウハウを、関係する県立特別支援学校進路指導担当者へ情報提供することで、特別支援学校生徒の進路選択や就労機会の拡充が図られるよう努めています。

理解促進の取組（就労促進フェアの開催）

特別支援学校生の就労促進に向けて、一般企業や地域の皆様の理解推進を図るため、県内３地区で就労促進フェアを実施しました。

技能競技会「錬成会」では、これまで実施してきた「ビルクリーニング」、「喫茶サービス」、「縫製」の各競技の他、今年度からは「ワード・プロセッサ」を加え、各校の選手が技能を競い合いました。

また、実践発表では、就労を目指す生徒が日々の職業教育の成果や働きたいという思いを発表しました。参観した方からは「目標に向けて一生懸命取り組んでいることが伝わった」、「一般の方へさらに啓発してほしい」などの感想をいただきました。

今後も、特別支援学校生の活動の様子について、発信方法を工夫し、障害者理解の促進を図っていきます。

事務系の力を育むために
～ワード・プロセッサ競技～

生徒たちの『働きたい』、
卒業生の『働き続けたい』を
応援してください。

問合せ先：教育庁特別支援教育課　TEL 018-860-5135

理解推進パンフレット

心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進

誰もが生き生きとした人生を過ごすことができる共生社会の実現のためには、多様な個人をよく理解することが必要です。「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方をもつすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことであり、県教育委員会では、障害理解の推進に向けた取組の一つとして本事業を今年度スタートさせました。

本事業では、令和６年度までの２年間、大仙市をモデル地区に指定し、小学校と特別支援学校の交流及び共同学習に関連付けた障害理解授業、ＰＴＡ研修会等の実施により、小学生やその保護者の障害理解を推進しています。今回は、モデル校である大仙市立内小友小学校と秋田県立大曲支援学校における今年度の取組を紹介します。

ハローの会「ミニミニ運動会」の様子

○学校間の交流

両校は、以前から「ハローの会」という名称で交流会を行っており、今年29年目を迎えました。今年度は６月と11月に行われ、学年ごとに相手校を訪問したり迎えたりしながら交流を楽しみました。

実際に会って交流するのは２日間ですが、事前学習としてオンラインで自己紹介等を行ったほか、事後学習として手紙を交換するなど、継続的にお互いのことを知る機会を設け、理解を深めました。

ハローの会「いっしょに歌おう」の様子

○ＰＴＡ学習参観日での取組

令和５年７月６日に実施された内小友小学校のＰＴＡ学習参観日では、１年生から３年生が障害者スポーツである「ボッチャ」の体験を行いました。また、４年生は、「ハローの会」の事後学習として、11月の「ハローの会」に向け、大曲支援学校の友だちともっと仲良くなるにはどうしたらよいか、グループに分かれて話し合いました。

障害者スポーツの体験や交流及び共同学習の事後学習の参観を通して、児童だけではなく保護者の方々にとっても、障害について考える機会となりました。

次年度は、内小友小学校と大曲支援学校の交流をきっかけに、他の小学校区や地域住民にも障害理解を広げていけるよう取り組み、さらに令和７年度以降は、大仙地区で得た取組の成果を生かしながら、県内他地区での障害理解の推進へと展開してまいります。

第50回全国高等学校総合文化祭

大会テーマ

「輝く稲穂に廻らす想い　おがれ若人　美の国秋田に今集え」

秋田高等学校２年　森川 眞琳

令和８年の夏、秋田県で「全国高等学校総合文化祭」が開催されます。この大会は全国の高校生による国内最大規模の芸術文化活動の祭典であり、文化部のインターハイとも称されます。会期中は全国から約２万人の高校生が集まり、観覧者は県民も含め約10万人になります。

■生徒準備委員会について

大会の企画に生徒の意見を反映させるために、昨年度から生徒準備委員会が組織され、中高生が主体となって準備を進めています。令和６年度には新たに生徒実行委員会が組織され、活動が本格化します。

○令和４年度生徒準備委員会

各部門から選出された高校生20名が、大会基本方針、大会キーワードについて検討しました。

〈大会基本方針〉

実り豊かな自然に囲まれ、歴史と文化の香りあふれる美の国秋田に、芸術文化活動への情熱に満ちた全国の高校生が集い、それぞれの青春が竿燈まつりの燈火（ともしび）のようにきらめく祭典を開催します。

半世紀にわたって受け継がれてきた総文祭の理念を継承し、一人一人の創造力が次の時代につながっていく総文祭を目指します。

〈大会キーワード〉　燈（とも）す　おがる　めぐる

あきた総文２０２６開催内容

総合開会式とパレードからなる開会行事を皮切りに、19の規定部門と開催県独自に行う協賛部門で展示、発表、競技等が繰り広げられるほか、海外から３か国の団体（高校生）を招き、県内高校生と文化交流を行います。

【規定部門】
演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学

【協賛部門】
茶華道、情報、特別支援学校

１０００日前イベント　文化創造館での展示

○令和５年度生徒準備委員会

中学生２名を含む29名で新たにスタートし、大会の周知を図るために広報イベントの企画・運営等を行いました。令和５年11月３日、アゴラ広場と秋田市文化創造館を会場に開催した１０００日前イベントでは、県内の高校で活動する文化部生徒による公演、展示等を行い、あきた総文２０２６で開催される部門についてＰＲしました。

生徒準備委員会での活動や、１０００日前イベントの様子はこちらをご覧ください

あきた総文２０２６プレサイト　大会公式インスタグラム

TOPICS

郷土あきたの教育への提案

第38回 秋田県教育研究発表会

第38回秋田県教育研究発表会が、令和６年２月１日に、潟上市の秋田県総合教育センターで開催されました。これは本県教育の振興を目的として、県教育委員会が毎年実施しているものです。今年度は、一部オンライン配信を取り入れた集合型での開催となり、県内外から210名が参加しました。研究発表会のコンセプトである「郷土あきたの教育への提案」の下、熱心に研究協議が行われました。

センター研究発表　共通テーマ「令和の新時代における秋田の教育」

総合教育センターでは、本県の教育課題の解決に向けて様々な角度から研究に取り組んでいます。今年度は、情報モラル教育、教科指導、特別支援教育について、２年計画のまとめの発表を行いました。

センター研究１【情報モラル教育】

情報モラル教育の充実に向けた指導プランの提案

情報モラル教育に関する小学校の現状や課題を受け、家庭との連携を含めた継続的・組織的な取組を目指し、短時間で取り組むことができる指導プランについて研究しました。実践結果を分析して有効性を探り、情報モラル教育の進め方について提案しました。

センター研究２【教科指導】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善

各教科等における資質・能力の確実な育成を目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に基づく授業改善について研究しました。これまでの学習活動や教師による児童生徒の学びの支援について見直す演習方法など、実践的なプランを提案しました。

センター研究３【特別支援教育】

特別な支援を必要とする児童生徒のためのＩＣＴを活用した指導・支援の工夫

特別な支援を必要とする児童生徒を対象とした、ＩＣＴを活用した指導・支援について研究しました。研修講座で実施したアンケート調査の分析と、受講者の学校で行われた実践事例を収集し、得られた知見を基に作成した研修資料について提案しました。

研究発表（口頭発表）　すぐれた研究成果の発表

各学校等から計20件の研究発表が行われました。国や県の委託による研究、大学院や長期社会体験研修における研究、総合教育センター研修員による研究等、多様な立場から先進的な研究成果が発表されました。

口頭発表の様子

参加者の声

- 県内他地域の実践を知ることができた。
- データの集め方やまとめ方など、自分の取組にも活用できる部分があり、勉強になった。

講　演　子供一人一人の学びの質を高める授業づくり

高橋　純 氏

講師：東京学芸大学教育学部
総合教育科学系教育学講座教授
高　橋　　純　氏

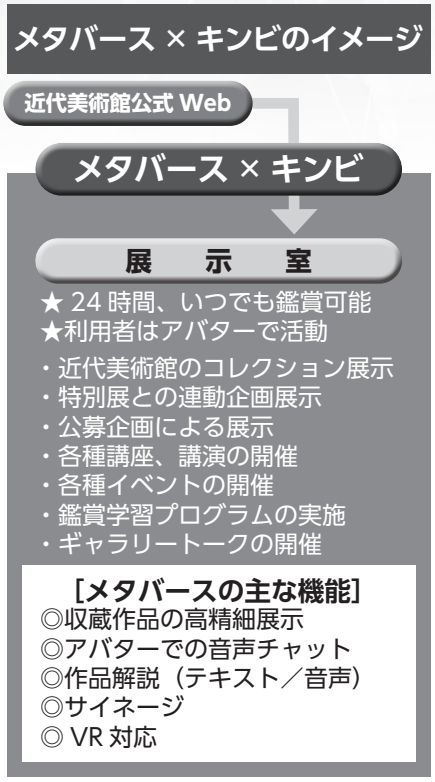
児童生徒に「生涯にわたって能動的に学び続ける力」をつけるための「新しい授業のイメージ」について、実践例を示しながらお話していただきました。これから目指していく学びの姿を思い描く機会となりました。

講演の様子

参加者の声

- 複線型の授業でのＩＣＴ活用について自校でも働きかけていきたい。改革の必要性を強く感じた。
- 授業に限らず、これからの社会の流れも予感させるような内容であった。

メタバース × MUSEUMあきた構築事業



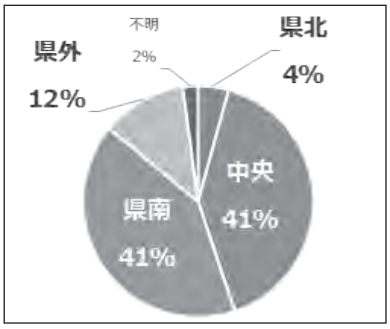
［図１］メタバース × キンビのイメージと主な機能

県教育委員会では、近代美術館（横手市）をモデルに、メタバース×MUSEUMの構築を進めています。近代美術館公式ウェブサイトを入口に、最先端のデジタル技術を用いて仮想近代美術館「メタバース×キンビ」を構築する取組で、令和６年４月からの本格運用を予定しています。

これにより、全ての人が、いつでもどこにいても、近代美術館の特色あるコンテンツを現実の様々な制約を越えて気軽に体験できるようにするとともに、本県の良質な文化芸術に親しむ機会の充実やにぎわい創出、文化遺産の保存・活用を促進します（［図１］）。

1.「メタバース」について

メタバースとは、インターネット上につくられた仮想空間のことです。利用者の分身であるキャラクター（アバター）を介して、空間内を動き回る、他者とコミュニケーションを取るなどの体験をすることができます。デジタル空間の中で、現実社会と同様に活動できるということがメタバースの本質です。



［図２］近代美術館の地域別来館者の内訳（令和４年度）

2．近代美術館の利用を取り巻く制約

●課題１　施設を訪れる上での制約

来館が困難である理由としては、自宅から遠い、時間に余裕がない、子どもが小さい、高齢である、身体等に障害があるなどが挙げられます。実際、近代美術館と距離のある県北から訪れる方の割合は毎年わずか数％にとどまっています（［図２］）。

●課題２　鑑賞時の制約

作品保護の観点から、展示方法や展示期間、照明の明るさに制限があるため、期待のコレクションに出会えない、規制線より先に近づけない、照明が暗い、ガラスの反射が気になるなど、鑑賞時の制約が生じます（［図３］）。これらの制約により、「よく見えない」「じっくり鑑賞できない」と感じることがあります。

●課題３　美術鑑賞の敷居の高さ

来場者の鑑賞を深めるため、順路の設定、作品の背景などを解説するキャプションの掲示といった配慮をしていますが、一方ではこれらの配慮が自由な鑑賞を妨げることもあります。

また、静かに鑑賞するというマナーに、「敷居の高さ」を感じ、美術館を気軽に利用しづらいとの声もあります。

近代美術館の利用を取り巻く制約・課題

◎施設を訪れる上での制約
遠い、交通の便が悪い、悪天候、身体等の障害などが来館の妨げに

◎鑑賞時の制約
規制線・ガラス・低照度等で、近づけない、見にくい、回り込めない

◎美術鑑賞の敷居の高さ
「一人で」「しゃべらず」「静かに」等、鑑賞マナーは難しい印象

［図３］近代美術館の利用を取り巻く制約・課題

3.「メタバース × キンビ」の特徴・効果

「メタバース×キンビ」では、そういった制約を越えて作品を鑑賞することが可能になります。そのため、特に、来館が困難な利用者層やデジタルコンテンツに関心の高い若年世代、美術館利用の経験が少ない利用者層に対する訴求力を高める効果があると考えています。

「メタバース×キンビ」の体験をきっかけに、展示物やコレクションに対して興味を持ってもらうことで、利用者の来館動機につなげるとともに、近代美術館に来館し、気づきを得た利用者が再び「メタバース×キンビ」で学びを深め、アバター同士でコミュニケーションを楽しんでもらうなど、多様な学び方・楽しみ方ができるよう支援します。

こうした鑑賞のハイブリッド化により、利用者に文化芸術のよさや価値を再認識していただけるよう、新たな鑑賞・体験機会の一つとして「メタバース×キンビ」を活用していただきたいと思います。

「メタバース × キンビ」の特徴・効果

●実際に館を訪れる動機づけ、興味喚起
- ミュージアムに興味をもち、モチベーションUP
- Z世代への訴求、インバウンド需要

●新しい鑑賞機会、学習環境の提供
- 誰でも、いつでも、どこからでも利用できる
- 貴重な資料も明るい環境下で自由に鑑賞できる
- 実際よりも作品や資料の細部に迫ることができる

●貴重な文化財の保存・継承

●対話やコラボレーションの奨励
- 対話による鑑賞は授業時の活用にも期待
- 世代や地域を越えて一緒に楽しめるしかけ
- 人や社会とつながる臨場感を味わえる

●展示やコンテンツの更新・拡張が容易に
- コレクションの展示替え、限定公開等
- DX化でコンテンツの拡張性が高まる

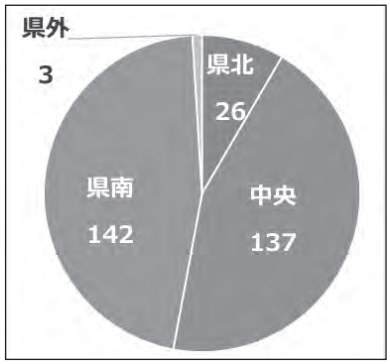
［図４］「メタバース × キンビ」の特徴・効果

●学校によるセカンドスクール的利用等への活用

県立４博物館施設（博物館・美術館・近代美術館・農業科学館）におけるセカンドスクール的利用*は、令和４年度実績で年間のべ308校でした。

学校による施設利用は、コロナ禍以降、移動自粛や授業時数確保等の理由から減少傾向で、特に県北からの利用が少ないことが課題となっています（［図５］）。

「メタバース×キンビ」では、子どもたちが教室に居ながら学芸員と交流し、授業時間内で鑑賞学習を完結することができるため、学校と美術館をつなぐ新しい学習コンテンツとしての魅力があります。こうしたメリットなどを積極的に発信し、市町村教育委員会とも連携しながら、授業や職員研修などへの活用促進を図ります。



［図５］セカンドスクール的利用学校数（令和４年度）

*教育施設等の人的・物的機能を十分に活用しながら、学校と教育施設等が連携して、各教科等の内容に関わる体験を伴う学習や郷土の自然や文化に触れる体験、共同生活体験等を複合的に実施することで、各教科等の授業時数を確保しつつ、体験活動の充実につなげる取組を推進します。

近代美術館は今年４月、おかげさまで開館30周年を迎えます。これを機に、近代美術館のめざす姿を象徴的に可視化しようと、公式ロゴマークを新設しました（［図６］）。

令和６年度は、このマークとともに、「メタバース×キンビ」の本格運用をはじめ、今後求められる機能強化への対応を進める県立４博物館施設の中核として、多様な主体と連携しながら、地域に開き、広く県民に親しまれる施設を目指してまいります。皆様のご利用をお待ちしております。

秋田県立近代美術館
AKITA MUSEUM OF MODERN ART

［図６］近代美術館公式ロゴマーク

県立図書館　伊藤永之介文庫のデジタルアーカイブを公開します

伊藤永之介
疎開先横手の書斎にて

伊藤永之介（1903（明治36）年～1959（昭和34）年）は、秋田市出身の農民文学作家です。農村を舞台とした「梟」「鴬」で芥川賞候補にノミネートされ、作家としての地位を確立したのち、戦後は「警察日記」「駐在所日記」が映画化され、人気を博しました。

令和５年は生誕120年の節目にあたることから、県立図書館では、伊藤永之介文庫のデジタル化及びデジタルアーカイブでの公開に取り組みました。

1　伊藤永之介文庫について

平成16年、岡里苜子（ちさこ）氏より、著作、旧蔵書、遺愛品等562点が寄贈され、伊藤永之介文庫が設置されました。さらに令和４年には、善養寺幸子氏より関係資料100点が新たに寄贈され、資料点数は662点となりました。新たに寄贈された資料の中には、直筆原稿や創作ノート、取材メモ、新聞記事のスクラップ等、伊藤永之介の創作の原点とも言える貴重な資料が多く含まれています。

2　デジタル化とデジタルアーカイブへの登録

これまで寄贈された資料の中から、直筆原稿、取材手帳や創作ノート、日記等30点を選定し撮影を行いました。画像データの中に個人情報が含まれていないか一点ずつ確認したのち、デジタルアーカイブに登録しました。令和５年12月末までに21点が登録済みで、今後も引き続き登録していく予定です。

デジタルアーカイブ「警察日記」より

3　デジタルアーカイブの公開について

登録した画像データは、秋田県立図書館デジタルアーカイブで公開しています。これにより、県内外の研究者の方からは、日記を翻刻し、研究に活用したいという要望がありました。今後も多方面で伊藤永之介の研究が進むことが期待されます。

図書館では、より多くの方に伊藤永之介の文学に触れていただけるよう、引き続きデジタル化を進め、発信してまいります。

デジタルアーカイブ「取材手帳中国めぐり
自昭和 31 年 9 月至 10 月」より

“お宝”がいっぱい！

秋田県立図書館デジタルアーカイブはこちらから→

貴重資料の他、秋田魁新報記事見出し索引、郷土雑誌索引、語り部による民話（音声）等、様々なコンテンツを検索・閲覧することができます。

SPOT

秋田県立近代美術館 開館30周年記念特別展

岩合光昭写真展「こねこ」

岩合さんがライフワークとして撮影を続ける最も身近な動物“ネコ”。本展では、岩合さんがこれまでに出会った世界各地域の“こねこ”たちが大集合します。愛くるしく元気いっぱいに暮らす“こねこ”たち。本展ではその日々の冒険に加え、同じ地球に暮らす、元気な“どうぶつ家族”の作品を特別展示。約170点の作品をご紹介します。

会　　期：令和６年４月20日（土）～７月15日（月・祝）
開館時間：９：30～17：00（最終入館16：30）
会　　場：秋田県立近代美術館　５階展示室（横手市）
観 覧 料：一般 1,100円（900円）、
　　高・大学生 700円（500円）
　　中学生以下無料
　　※（　）内は前売り、20名以上の団体料金
主　　催：岩合光昭写真展「こねこ」実行委員会
　　（秋田県立近代美術館・ABS秋田放送）
お問合せ：秋田県立近代美術館　Tel.0182-33-8855

© Mitsuaki Iwago

SPOT

秋田県立近代美術館 開館30周年記念特別展

「THE 新版画　版元・渡邊庄三郎の挑戦」

伝統的な浮世絵木版技術を用い、高い芸術性を意識した「新版画」は、大正から昭和にかけて国内外で人気を呼びました。その瑞々しい情趣や清新な感覚は、今なお我々を魅了して止みません。本展では、新版画を牽引し世に広めた版元・渡邊庄三郎の挑戦の軌跡をたどりつつ、伊東深水や川瀬巴水らの希少な初摺を通して、新版画の魅力をご紹介します。

会　　期：令和６年７月20日（土）～９月23日（月・祝）
開館時間：９：30～17：00（最終入館16：30）
会　　場：秋田県立近代美術館　５階展示室（横手市）
観 覧 料：一般1,200円（1,000円）、高・大学生800円
　　中学生以下無料
　　※（　）内は前売り、20名以上の団体料金
主　　催：新版画展実行委員会
　　（AAB秋田朝日放送・秋田県立近代美術館）
お問合せ：秋田県立近代美術館　Tel.0182-33-8855

川瀬巴水《東京十二題　こま形河岸》
大正8年（1919）　渡邊木版美術画舗蔵

SPOT

秋田県立博物館企画展

「大こうぶつ展　鉱物を楽しむ5つのメニュー」

県民歌に「地下なる鉱脈、無限の宝庫」と謳われているように、秋田県はかつて日本有数の鉱山県でした。博物館には県内鉱山から産出した鉱物標本が多数収蔵されています。本展ではそれらの標本はもちろん、世界各地の美しい結晶なども多数展示し、鉱物の形や色、貴金属や宝石、レアメタルといった魅力あふれる鉱物の世界を趣向を凝らした５つのメニューで紹介します。

会　　期：令和５年11月23日（木・祝）
　　～令和６年４月７日（日）
開館時間：９：30～16：00（４月１日以降は～16：30）
会　　場：秋田県立博物館　２階企画展示室（秋田市）
観 覧 料：無料
休 館 日：毎週月曜日（月曜が休日の場合は翌平日）
お問合せ：秋田県立博物館　Tel.018-873-4121

SPOT

あきた文学資料館新収蔵資料展

秋田の文化資源を掘り起こす

元秋田魁新報社社員の故千葉三郎さんが収集した資料、男鹿市船越出身の俳人貝塚静薫の旧蔵資料、能代市出身の劇作家八木隆一郎関係資料を中心に、秋田ゆかりの文学資料を展示します。

会　　期：令和６年３月15日（金）～５月12日（日）
開館時間：10：00～16：00
会　　場：あきた文学資料館（秋田市）
観 覧 料：無料
休 館 日：毎週月曜日、５月４日（土）～５月５日（日）
お問合せ：あきた文学資料館　Tel.018-884-7760

SPOT

秋田魁新報創刊150年記念特別展

日本の洋画130年 珠玉の名品たち

日本近代美術史に名を遺す、明治草創期から現代に至る洋画の名品を紹介します。日本洋画史上最初の本格的な洋画家と称される高橋由一をはじめ、黒田清輝、藤島武二、青木繁、安井曾太郎、佐伯祐三、舟越保武など、日本を代表する巨匠たちの優品が一堂に会します。この機会に、ぜひご来場ください。

会　　期：令和６年４月20日（土）～６月30日（日）
開館時間：10：00～18：00（最終入館17：30）
会　　場：秋田県立美術館　３階ギャラリー（秋田市）
観 覧 料　一般 1,000円（800円）、高・大学生 800円（600円）
　　中学生以下無料
　　※（　）内は前売り、20名以上の団体料金
主　　催：日本の洋画130年展実行委員会
　　（秋田魁新報社・秋田県・公益財団法人平野政吉美術財団）
お問合せ：秋田県立美術館　Tel.018-853-8686

高橋由一《鮭図》
笠間日動美術館蔵

TOPICS

新たな本との出会い！

「ビブリオバトル 2023 in AKITA（秋田県大会）」録画配信中!

令和５年11月23日（木・祝）に秋田拠点センターアルヴェ（秋田市）で開催した「ビブリオバトル2023 in AKITA（秋田県大会）」の様子を録画配信しています。県内中高生バトラーの熱い戦いを、是非ご覧ください。

↑録画配信や情報は
こちらから

ビブリオバトルとは？

ビブリオバトルは、発表者（バトラー）がお薦めの本の魅力を５分間で紹介し、２～３分のディスカッションの後、聞いていた人たち全員で「一番読みたくなった本」（チャンプ本）を投票で決める知的書評合戦です。

秋田県では、中学生・高校生をバトラーとした地区大会を県内７か所で開催し、地区大会を勝ち抜いた生徒たちによる県大会を開催しています。

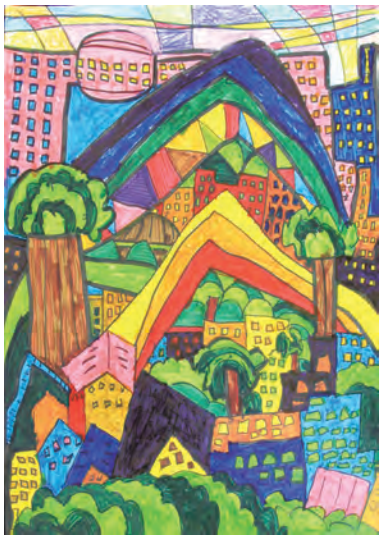
ビブリオバトル 2023 in AKITAの様子

秋田県特別支援学校 文化祭作品紹介

秋田県特別支援学校文化祭（「第21回わくわく美術展」と「令和５年度 みんなの写真展」）が、秋田市にぎわい交流館AU等を会場に開催されました。「わくわく美術展」絵画作品部門719点、自由作品部門79点、「みんなの写真展」379点の応募作品の中から最優秀作品を紹介します。

わくわく美術展 絵画作品部門

「自画像～18歳の私～」
栗田支援学校 高等部3年 田崎 陽大



「レインボーブリッジ」
三種町立琴丘小学校 4年 川村 拓

わくわく美術展 自由作品部門

「どぐうファミリーハウスへようこそ！」
能代支援学校 小学部4・5・6年
小松 杏菜、進藤 愛珠、鈴木 莉愛、相澤 萌絵、加賀谷 優心、K・T、K・Y、鈴木 陽翔、塚本 樹理、浜辺 悠平、藤原 涼翔、三浦 夏希、赤川 駿、佐々木 有希菜、澤谷 悠人、本間 さくら

「動物たちの秋」
秋田きらり支援学校 高等部1年 佐藤 日和

みんなの写真展

「かしゃ！」
秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 小学部1年 東海林 朝

「きれいな花火」
秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 高等部1年 秋本 翔

■「教育あきた」は、県の教育関連施設や市町村の公民館、図書館等に設置しています。
また、県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」からもご覧いただけます。

この印刷物は4,800部作成し、印刷経費は1部当たり31円です。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

令和６年３月14日「教育あきた」№758
発行・秋田県教育委員会
編集・秋田県教育庁総務課
〒010-8580 秋田市山王三丁目1-1
TEL.018-860-5112 FAX.018-860-5851
Eメール soumu-edu@pref.akita.lg.jp
https://www.pref.akita.lg.jp/pages/education